

1970 年代からの日本におけるお笑い文化の盛衰

本稿は 1970 年から現代までのお笑い文化のブームと衰退の要因、特に漫才の定義について明らかにしていくことを目的とした論文である。研究動機は 2020 年の行われた漫才の大会である M1 グランプリで優勝したマヂカルラブリーの漫才について論争が起きたことをきっかけに、長い歴史を誇る漫才の曖昧さに疑問を持ち、漫才の定義を明らかにしたいという願望を持ったからである。研究方法はバラエティ番組の視聴率や文献を用いて世代を分類し、分類された年代ごとに代表される 1970 年横山やすし・西川きよしの「男の中の男」、1980 年ツービートの「交通標語」、1990 年ダウンタウンの「誘拐」、2020 年マヂカルラブリーの「フレンチ」のネタの分析考察。漫才の競技性と評価基準を明らかにするために M1 グランプリの歴代優勝者の出場経歴、参加人数を用いた。研究結果はお笑い文化のブームにはテレビが大きな影響をもたらし、各年代において異なる性質を持ち変化していくこと。また M1 グランプリの登場によって漫才に競技性が加速、新鮮さが求められることになり、既存の漫才の形式に捕らわれず、時代の変化と自身のキャラクターにあった漫才を行うことが現代の漫才の定義であるという結論が導かれた。